



JAPAN REGION



III

Volume 35

July 2017

目 次

Table of Contents

今期のテーマ	1	2016-2017 Theme
年次大会基調演説	2	Annual Conference Keynote Address
公式訪問者からのメッセージ	3	Message from ITC Official Visitor
役員からのメッセージ	4~5	Messages from Officers
委員会からのメッセージ	6	Messages from Committee Chairs
世界大会に向け・事務局より	7	The 2017 ITC Convention, Region Office Report
年次大会特集 CMT・TPP 報告	8	Japan Region Annual Conference Special Edition. CMT and TPP Reports
日本リージョン役員会年次報告	9	Annual Report
会則決議審議結果	10	Report on the Bylaws
講演	11	Lecture
教育セッション報告	12~15	Training Session Reports
スピーチコンテスト (日本語)	16	Speech Contest (Japanese)
スピーチコンテスト (英語)	17	Speech Contest (English)
ライティングコンテスト	18~19	Writing Contests
大会アルバム	20~22	Conference Photo Album
広報関係	23	Public Relations
次期役員・指名委員会	24	Next Term Officers
次回年次大会案内	25	Invitation to Next Region Conference
記念例会報告	26~27	Club & Council Anniversary Meetings
PREM 会合	28~29	PREM Meetings
日本リージョン情報	30	Information from Japan Region
編集後記	31	Messages from Editors
ITC 宣誓、リージョン声明文		ITC Pledge & Mission Statement

日本リージョン 第35期テーマ

2016—2017

Japan Region Theme

Upwards and Onwards Together



見上げて 共に進もう

ITC Theme

2015—2017

“Leading the way …”

先頭を切って

年次大会基調演説



見上げて 共に進もう “Upwards and Onwards Together”

第35期日本リージョン会長
中野知子

日本リージョン第35期はその期が始まると同時に国際役員会から「日本リージョンとITC役員が共に、日本リージョンの再編成に関する討議をするための10人委員会を設立する」という計画が届きましたが、私たち35期役員会はその計画の撤回をITC役員会に要請し受け入れられ撤回された、という案件に始まりました。そして今から3週間前に「ITC役員会はITC解散決議案を全員一致で採択した」との報告を受けました。この二つの出来ごとは、日本リージョン会員にとってのITC活動について改めて深く考え、クラブの中でもお互いに考えを確認し合う良い機会にもなったかと思っております。

この様な時にこそ培って来たコミュニケーション力を使って、それぞれの考えていることを伝えあい、議論の上に議論を積み重ねていくことが最も大切なことに違いありません。

ここで「聴く力」が大きく求められます。私は「聴く力」の大切さをこの一年間強く思って参りました。コミュニケーション技術の中には「話す力」「聴く力」が含まれますが話す力は訓練する機会が比較的多く、一人でも練習できます。でも「聴く力」は一人では訓練できず、コミュニケーションを繰り返しながら会得していきます。「良いリーダーは自分の時間の半分以上を聞くことに費やす」といわれています。

人の話を十分に理解することなく言いたいことを発表するばかりでは、議論をきっちりと重ねあげていくことは難しく、他の人の話をしっかりと聞き取り、その上での発表を作り上げていかねばなりません。

しかもよく聞くためには忍耐力が必要なので、焦らずに相手の気持ちを正確に汲み取っていかねばなりません。よく聴き、よく話す。そしてなお、聴く時にも何を聞き取るべきなのかを分かって聴く。無心で聴く、分析しながら聴く、ケースバイケースでの確かな聞き方の判断が必要です。正しく聴く力があってこそお互いの理解をさらに深め、次のコミュニケーションへの積み重ねができていくのです。よく聴くことはむしろ受動的というより能動的な働きかけでもあるのです。

今日、明日の二日間、いろんな形で「聴く力」を発揮する機会が準備されております。皆様どうぞ忍耐強く何を聞き取るべきなのかを考えて、しっかりと聴くことを楽しみましょう。

The 35th Japan Region started with a plan from the International Board saying, “The Japan Region and the ITC Board will establish a 10-member-committee to discuss reorganization of the Japan Region.” The request for its withdrawal from the Japan Region was accepted. Three weeks ago, we received a report saying, “The ITC Board unanimously approved dissolution of the ITC Corporation.”

These two reports gave us the opportunities to deeply reconsider what really the ITC activities meant and to reconfirm the mutual understandings in the clubs. In this crucial time, it is very important to have discussion after discussion to convey different opinions with our power of communication that we have so far acquired.

Listening ability is very important. Listening has been my priority all through the year. Two main factors of communication are speaking ability and listening ability. There are many opportunities to train speaking ability and you can train it by yourself. But listening ability has less training opportunities and you cannot do it by yourself. It can be acquired through communicating with others.

A good leader spends more than half her or his time in listening.

If you express your own ideas without understanding others' opinions fully, you cannot reach a good conclusion after a long discussion. The best way is to listen to others' opinions first and then you express your own ideas. Of course, it requires a lot of perseverance. You have to catch the core feelings of others.

Listen carefully, and speak well. When you listen to others, you should think what the others want to say. You had better eliminate any preconception and have analytic mind depending on the situation. Appropriate listening ability brings better understanding and leads to better communication. Good listening is not a passive action but a positive action.

There will be many chances to use your listening ability during this two-day conference. Please listen the core of what you hear with perseverance and enjoy these opportunities.

年次大会公式訪問者

ITC ディビジョンIV副会長
小菅あけみ SC. Fellow of ITC

5月初めに、ITC 役員会は解散の決議案を出しました。もっと早く会員と共に ITC の危機を考え未来を話し合いたいと望んでいたにもかかわらず、カルフォルニアの法の下に置かれた組織であるがゆえに、大会3か月前に将来を決める決議案の是非を問わなくてはならず、国際役員会は大変申しわけなく思っています。



- 役員会** 昨年のロトルア大会での役員会を含め、今年4月までに対面役員会を4回と、スカイプを使った役員会を13回開きました。
- コミュニケーション** 5種の刊行物を出しています。役員会便り (FtB)、“POWERtalking” “POWERlines” “In a Manner of Speaking” “Member Spotlight” 和訳担当の皆様にお礼申し上げます。
- ショートコース** オーストラリア、NZ、ヨーロッパ’92ではこのコースで会員を増やしています。
- ソーシャルメディア** 会員限定のフェイスブックを使って会員の間でのコミュニケーションが盛んです。ITC 解散に関しても世界中の会員の意見が交換されています。(入会希望者は小菅まで) また、オーストラリア、NZ、アイスランドでは、インターネット PR で会員が増えています。
- マスターマニュアル** ウェブサイトに新入会員用のマニュアル入門編(約60頁)を加えました。原本のマスターマニュアルの10分の1で持ち運びに便利です。歴史、組織や資格認証と報告書の実例がついています。
- 会員状況** 4月現在2,194人。この数字は108名の重複会員と95名の年会費免除の終身会員を含んでいます。年会費を納める会員数は1,991名。役員のリサイクルやクラブ会員の少数化、カウンスル会合数の減少等、特にディビジョンIとIIにおいてこの現象が顕著に見られます。今年度も入会者がありますが、全体としては上昇にはあたりません。
- 国際大会** セッション「シップスログ」は役員会が ITC の組織の現況を話し会員と話し合います。
日本からの5つのワークショップを含め素晴らしいワークショップがたくさん用意されています。

解散の決議案について

- ❖ クラブ、カウンスル、リージョンは機能を存続しても良いですが ITC や POWERtalk International の名前は使えません。ITC はドアを閉めますが、今日の社会の要求にかなう若い世代をも受け入れられる新しい組織を作る可能性は開かれています。
- ❖ 国際大会の第一回ビジネスの後に投票が行われ、もし解散決議が採択されれば、のこりの時間帯は、会員がこれからどう進めていくかを話し合う時間となります。次期会長のメアリーフレンツカを始め、複数のリージョンから新組織案が出されます。
- ❖ 教育資料は ITC の著作権マークをつけて、利用することができます。
- ❖ ITC ウェブサイトは、解散決議案が採択されれば8月1日又はその後早いうちに終了します。
- ❖ 全て物事は変化します。

一人ひとりがこの変化を学びと成長のためのチャンスととらえ、
今までできなかった新しいことを含め、未来への方向を決めてください。

今期の活動を振り返り

第一副会長

佐野 千賀子

今大会では、ITCらしく気がついた時に評価を書きいただき、集計の結果103枚の評価用紙が回収されました。

1枚に複数の項目について書かれているケースや1項目についてのみの意見もあり、意見件数は総数175でした。その内、スピーチコンテストについては5件、晩餐会については17件、その他ビジネス・TPP、運営に関するものが55件、講演22件、教育セッションについては76件のご意見をいただきました。

後者2項目に関しては、もちろんプログラム委員会の不手際のご指摘や改善点の提言もいただきましたが、企画内容についてはほぼ満点の評価をいただき、それぞれの参加者にはとても喜んでいただけたようでプログラム・教育委員会の委員一同大変うれしく思っています。

なるべく外部からの講師ではなく、会員によるITCらしい教育セッションにしたいという委員長の希望が委員会の理解を得、アイデアを出し合った結果として専門的知識を持っている会員によるものや、全くゼロから委員とWL、PLで作上げたものがほとんどでした。

外部講師によるものもITC会員のニーズをよく説明し理解していただいた上でのワークショップでしたから、内容についてはどれも大変満足していただけたようで、会員が光る教育セッションができたと思っています。

全般的に、ビジネスや晩餐会、特にエンターテイメント、ビジネスの進行は概ね良い評価をいただきましたが、もちろん改善すべき点反省すべき点のご指摘もいただき、来期に役立てていただければと思役員会、準備委員会等にはすでにまとめたものをお渡しいたしました。

ご要望・改善点のいくつかをご紹介しますと、

- 1) ITCが解散という時期の大会だからもっとこれからのことを話し合う時間が欲しかった
- 2) ホテルが2つにならない会場の方がよかった
- 3) ビジネス、全体講演など大会場でのマイクのきこえが悪かった
- 4) 教育セッションで大きい部屋をパーティションで区切って分けて使った会場がいくつかあったが、となりの声が響いて聞こえにくかった などの声です。

プログラム教育委員会は、講演、教育セッションの企画と今期は特にワークショップを作り上げる作業も加わり、大会冊子の作成と校正など、この1年間は大変忙しい毎日を過ごしましたが、忙しかった分だけ充実感もあり、他クラブ他カウンスルの委員たちと親しくなり、お互いに学ぶことも多い1年でした。大会で実施した教育セッションを、今後、カウンスルやクラブのプログラムに活用していただけたら幸いです。

第二副会長

松山 喜代子

熱心・素直・思いやりそして思慮深い人々が共に学ぶ！（アーネスティン・ホワイ女史挨拶 一部引用）

7月に役員就任を受け、PREM委員会活動を始めると同時に、早くもひろしまクラブから立派な企画書が届きました。会員29名のクラブが、次世代に向けてしっかりとした考えを持ち準備をされたものでした。それが35期のスタートでした。会員の皆様には、少しでも早くPREM情報をお願い、8月末にPREMニュース第1回において、パワーポイントによるプレゼンテーション資料「What's ITC」、成功例、名刺など一式を配信いたしました。同時に会員の皆様それぞれが現在のクラブ状況を再考し、活動を行っていただく良い機会ではないかと思、「会員増強」「会員維持」を目的とするアンケートを実施いたしました。多くの方々が真摯な態度でお答え下さり感動いたしました。皆様の貴重なご意見をほぼ網羅したアンケート結果はPREMニュース第2回で成功例と共に配信し、情報の共有を行いました。

10月には安芸クラブで開催されたオープン例会に参加し、そこには以前24名いた会員が6名迄減り、その後、長きに渡りオープン例会を繰り返し、今期初めには24名になった現実がありました。更に30名を目標とされ、来期入会決定の2名を入れ会員数30名を達成されました。充実したプログラムを行うには、人数の確保は必要というお考えによるものでした。「継続は力なり」を実践しておられるクラブです。

ITCの組織として社会貢献を行っている、ひがし広島クラブ主催「小・中学生スピーチコンテスト」、カウンスルNo.3主催「高校生スピーチコンテスト」は、共に次期第7回を迎えます。全国各地で展開されることを願っています。また若い世代の方々が参加できる仕組み作りを早急に行い、コミュニケーション力アップなどの講座を行う事が今後必要ではないかと考えます。皆様の熱心な活動により今期の新入会員は48名でした。また大津京遷都1350年記念事業の一環としての冊子にITC広報資料が掲載されました。

年次大会晩餐会においては、6項目61件表彰しました。①継続会員52名（45年2名、40年7名、30年26名、20年17名）②新入会員最多クラブ（安芸・南大阪・城北）③新入会員最多紹介者1名（城北 竹本麻美）④30名維持クラブ（倉吉・出雲）⑤30名達成クラブ（クリスタル神戸・岡山）⑥PREM委員会特別推薦賞1名（ひろしま・安芸 高木彬子）。PREM委員会は大会において教育セッションを担当し、活発な意見交換タイムを持ちました。世界大会におきましてはTarget 20/20について、4件表彰されることに決まりました。安芸・城北・横浜クラブは20%以上増強、とっとり砂丘クラブは20名達成です。新生ITCとして、先輩方より継承された良いものは継続し、また今の時代に即した活動を行う事は、今後不可欠だと思います。この機会をチャンスとしてとらえ、謙虚で素直そしておおらかな心を持ち、品格ある組織としてさらなる向上を願いたいものです。

議会議法規役員

葛谷 美紀子

「新議事はありますか？」

リージョン大会で予定されていた常規修正案の審議終了後、議長は一般動議提出の有無を尋ねました。動議を提出する手順は

- ① 派遣員が動議を提出する
- ② 他の派遣員がセカンドする
- ③ 議長が動議の取り上げを宣言する

★動議を提出することやこれをセカンドすることは、動議を会議に提出したことにならない。議長のみが会議に動議を提出できる。

「ロバート議事規則」23ページ 11版英語版では 32ページ参照

★第35回 ITC 日本リージョン年次大会冊子9ページ 大会規則
5.動議 5.2. 動議は、書面の形で提出される。

予定されていない動議を審議するには、議長が内容を確認できるように動議が書かれた用紙を提出します。更に他の派遣員にもその動議について検討する準備ができるようインフォメーションするのは、動議提出者の責任ですから気をつけましょう。

RCLO

杉谷 和代

リージョンと国際のかけ橋としてのRCLO

今期のRCLOに任命されたことに感謝します。会則8.2.4.では「コミュニケーション リエゾン オフィサー（CLO）はITCと個々のクラブ（クラブCLO）間のコミュニケーションを広める責任を有する」とあります。しかし広めるとは自動的で機械的な作業ではなく、受信したものに目を通し、送り主の意図を理解して配信する配慮が必要と感じます。

あくまでもリージョン会長の指示の下配信をするわけですが、常に最終的に受け取るクラブ会員のことを思い配信する心遣いが不可欠です。今期は国際ニュースが非常に多く、その上、リージョン大会1ヶ月前の解散決議案を始め、それに伴う解説および情報は、その重要性を考えると迅速な和訳が要求され、今までの和訳システムを破った作業が実践されました。全ての情報が無事に迅速に全てのクラブに配信できた事は、RCLOとして最後の役目となる事に感慨無量で今期を終えました。学んだ事を発揮できる場が与えられるITCのトレーニングを改めて評価に値する組織だと実感し、感謝をこめてITCに別れを告げます。

今期の活動を振り返り



資格認証委員会

委員長 乙野 靖子

今期は会員の熱意とクラブ、カウンスル資格認証委員長の尽力のお蔭で、46名の会員が認証状を受理されました。コース4を取得された方も居られます。

資格認証委員長の仕事で大変なのは会員の申請書を纏めて一括し、国際委員長に送付する時だと聞いていましたが、やはり大変でした。他の委員と申請書を丁寧に点検。サインや日付が抜けている。完了するスピーチの数が足りない。申請者の名前が達筆過ぎて読めない。会員番号が記入されていない。等々、色々問題が出てきます。

問題のあった会員に訂正や、追加の依頼。これで問題なしと国際委員長に送付。認証をただ待つばかりのはずが、国際委員長から真夜中にお尋ねのメール。今期だけか、国際委員長は結構厳しく過去の記録も調べられ、メールが数回。向こうの勘違いもあり、理解していただくのに、眠い目をこすりながら、こちらからも数回メール。時差があるので、真夜中の交信です。やっと問題が解決し、Yasuko, Thank you for your patience! Thank you for your extra works! と云うねぎらいの言葉にほっとしました。

これからも日本リージョンの活動は存続されるでしょう。個人の学びの歴史書でもあり、次のステップの挑戦を駆り立て学ぶ意欲を高めてくれる、この素晴らしい資格認証プログラムも、何らかの形で存続されることを強く期待します。



翻訳委員会

委員長 藤原 雅子

主な活動は FtB125,126,127,128、Powertalking 31、Powerlines、Sailing Line#2、国際会則修正案、解散に関する Q&A の翻訳でした。FtB は会長メッセージや役員会からのお知らせが中心です。Sailing Line は世界大会ニュースで、詳しい日程、観光案内など魅力的な記事ばかりでした。

そのほか委員会報告、他リージョン・他カウンスルニュース、役職の任務についてなど、参考になる記事ばかりです。ITC の活動を知る手段としてしっかりお読みいただけましたでしょうか。

大会関係ニュースや解散に関する Q&A は小菅ディビジョンIV副会長、杉谷 RCLO にもご協力いただきまして大変感謝いたしております。これらの刊行物は予告なしに送付されてきますので、暮れの忙しい時期や個人的に予定が入っているときは大変ですが、無事仕上げたときの喜びはひとしおです。

この仕事を通しての収穫が2点あります。

1点目は ITC の組織に詳しくなったこと。翻訳するには ITC 組織やビジネスに関する知識が要求されます。会則修正案が来た時には ITC 会則を入念に読み直しました。

2点目は、文章を丁寧に読み、内容をしっかり把握しようと努力するようになったこと。9人の委員が分担して翻訳に当たりました。文化の違い、表現方法の違いなど日本語にするのが難しい時もありますが、内容を正しく理解し、読みやすい日本語にと心掛けました。委員の皆様にお礼申し上げます。

WORKSHOP

教育・資料研究委員会

委員長 斉木ゆかり

教育・資料研究委員会は、新たに教育資料・準備のいらないワークショップシリーズの第4弾として「素朴なコロンブス」を開発しました。「素朴なコロンブス」とは、「身近にある小さなさやかな発見を語ることで幸せに気づく」というワークショップ資料です。

もちろん事前の準備はいりません。近々皆様のお目に留まることでしょうか。この資料がすぐにでもクラブやカウンスルのプログラムに役立つことを願っております。

さらに、すでに国際 HP にアップされていた英文教育資料「チャップリンスピーチ」と「回転寿司」を日本リージョンの HP でも英文のままで見られるようになりました。今後も皆様が独自に開発された資料などがありましたら、どうぞ委員会にご提案ください。

日本リージョンで有効活用できる資料として取り上げていきたいと思っております。

世界大会に向け・事務局より

シアトルでの世界大会に向けて！



国際交流委員長

大谷 差智子

今期は7月21日（金）から26日（水）までの6日間、シアトルで世界大会が開催されます。

今大会の最重要課題は、ITC 団体組織の解散決議案の採択が行われることです。

- 7月22日(土) 国際役員とのセッションにおいて、解散決議案の詳細についての説明があります。
- 7月23日(日) 午前11時45分に予定されている第1回ビジネス会合で、投票用紙を使っての無記名投票が行われます。解散決議案は世界大会に出席し、投票した派遣員の過半数を得ることで決定されます。日本からの派遣員は ITC 日本リージョンの将来にかかわる大きな任務があります。しっかりと自覚をもってシアトル大会に参加してまいります。

世界大会での会員活動報告

ウェルカムパーティ 21日(金) 山崎直美 (しらさぎクラブ) ITC ソング歌唱
スピーチコンテスト①コスモポリタン・スピーチコンテスト 22日(土) ②スピーチコンテスト 24日(月)
ワークショップ 23日(日) 小松利香子 24日(月) 山口久美子・斉木ゆかり
25日(火) ①柴田ひさ ②坂口正子・高山敦子
26日(水) 小菅あけみ DVIV副会長 (プレゼンター担当)
その他大勢の会員がお役を担われています。

事務局って？ Q&A

事務局長 深澤佳代子

Q1 どこにありますか？

- ▶ JR 芦屋駅から北へ徒歩5分。ハウゼ芦屋105です。
JR 芦屋まで JR 新大阪より新快速利用 約20分
新幹線 新神戸より約20分 (JR 三宮駅より新快速利用)

Q2 誰でも利用できますか？

- ▶ リージョン (無料) ・カウンスル (¥500) の役員会・委員会のみ利用できます。
今期はリージョン PREM 委員会、カウンスル No.2 がよく利用されました。

Q3 物品購入が今までならほしい時にすぐにできましたが・・・

- ▶ 今期は事務員の出勤が月1回となったためカウンスル会合時での注文にしました。
ITC 会員が何時も常駐することは不可能ですのでご理解をお願いします。

Q4 今期の大きな活動は？

- ▶ 前期末には為替の大きな変動があり今期の始めに全クラブに1 USDにつき ¥10 返金しました。
クラブ会計の負担軽減のため例年国際に送る書類の簡素化を国際に提案し実現しました。
また ITC 役職ピンや ITC に関する物品の製作もしました。

Q5 自分の会員番号がわかりません

- ▶ クラブ会計でわからない時は、事務局は全会員の番号を保持していますのでいつでもお尋ねください。

Q6 事務局の今後について何かご意見ありますか？

- ▶ 今回の国際解散決議案で事務局の労力と時間が無駄にならないように今後へと繋がっていくことを願い、皆様に事務局任務の認識と水面下での活動を深くご理解頂ければ嬉しいです。

第35期 日本リージョン年次大会報告

第35回日本リージョン年次大会は2017年6月5日(月) 6日(火) 7日(水) の3日間、奈良ロイヤルホテルにて大会テーマ“心はずむ出会い Inspiring Encounters”のもと開催され、大会1日目 CMT TPP の2つの研修会と国際決議案についての意見交換会が行われました。

カウンスル運営研修会 (CMT) 報告

次期会長 西村みつ子



CMT は例年通り大会初日の1番目に行われました。99名の参加者が10部門に分かれ、濃い時間を共有し80分間部門ごとの研修が行われました。国際が解散するという時に研修など、という思いの方もおられたと思いますが、来期のスムーズなカウンスルやクラブの運営のためにまずは任務について熱心に学びました。最後の25分は全体会として部門で話し合ったことを発表しました。今後、組織について特別委員会で検討するためにも、全体会で発表された意見や要望は大変参考になるものでした。

TPP報告「メンタリング」

ITC ディビジョンIV副会長 小菅あけみ



クラブを活性化するような、効果的なメンタリングをみんなで考えました。教わる側の状況を見ながら必要なことに対応し、解決の道を示しながら、自分で解決させること。新入会員が早くクラブに慣れ、楽しく一緒に学べるように協力しましょう。ワークショップ資料(日英)はリージョンウェブサイト>第35回リージョン年次大会>TPPに掲載してあります。

国際解散決議案についての意見交換会

小菅あけみ

- Q インターナショナルという言葉が消えて(英語クラブは)国際とのつながりをどう考えればよいのか
世界の続けたいというリージョン同士がリンクしてゆけば、必然的に英語が入ってくる。
解散決議案が可決すれば、残ったビジネスの時間で新組織の在り方を考える予定。
フェイスブック、スカイプなどネット上で費用も少なくても会員同士が意見を交換することも出来る。
- Q 英語クラブが一つとなって、イングリッシュカウンスルのようなものを作り一緒に活動できる新しい可能性が出てきた。時代に即した、若い人に魅力のある、親子連れでコミュニケーションが出来る、日本語でも英語でも可能な新しい会社を立ち上げてはどうか
今までの組織では出来なかったが、いろいろな可能性が出て来たと思う。
- Q 「ITC 資産詳細表の中4,000ドルの寄付金の中で、英語を母国語としない日本とアイスランドと分け合う分配金について説明してほしい」
この寄付は ITC の名前の PR のために寄付されたものではあるが、国際役員会では寄付者の了解をとって翻訳費用として計上。7月31日までに領収書を送って申請すれば支給される。
- Q 「ITC 日本リージョンという言葉は、リージョンというのが地域という意味ではなく、ひとつの固有名詞として使えば、使うことは可能か」
可能性はゼロではないと思う。
- Q 「カウンスルという言葉も、固有名詞と思えば使えるか。来年もリージョン大会をやりたい」
これから時間をかけて、会員それぞれが考えクラブ単位で考えて進めていきたい(中野)
- Q 「国際解散後も ITC という名称が再び日本で使えるかどうかを国際法律事務所に勤務する人にたずねたところ、自由に使えるのではないかと返事もらった」
米国では弁護士に調べてもらったが無理だった(小菅)日本ではどうかを調べてみる(中野)
- Q 「解散時、日本リージョンも ITC という名前がついているので、負債を背負うことにならないのか」
負債がかからないように、今、解散することが必要。その代わり、お金が余った場合は、米国の法律に従い、カリフォルニア州に登録している慈善団体に寄付するようになる」



小菅 解散を前向きにとらえてほしい。新しい時代のコミュニケーション組織につながってほしいと願います。

第35期 ITC 日本リージョン役員会年次報告

2017年8月1日～2018年7月31日

第35期日本リージョン役員会は、テーマ「見上げて 共に進もう」“Upwards and Onwards Together”のもと

1. ITC の意味、意義を自覚する
2. ITC メンバーであることを楽しめる活動をする
3. ITC 活動を無理なく地域や社会と共有する

以上3つの方針に沿って、以下の活動を行った。

1 クラブ数・会員数の状況

日本リージョンは今期8カウンスル72クラブ1,089名でスタートした。6月3日現在、72クラブ、会員数1,116名、新入会員47名である。

2 研修会報告

- ① カウンスル運営研修会（CMT）は、2017年6月5日奈良ロイヤルホテルにおいて10部門で開催された。
- ② トレーニングパワーパック（TPP）は、6月5日公式訪問者小菅あけみ ITC 副会長 Div. IVにより行われた。
- ③ 年次大会の評価は6月7日年次大会終了後、公式訪問者より第35期日本リージョン役員及び大会準備委員長を対象に行われた。
- ④ 評価の後、公式訪問者より日本リージョン新役員を対象にリージョン運営研修会（RMT）が行われた。

3 主たる活動

- ① 役員会は、任命役員の議会法規役員、編集者も出席し、現在までに11回開催した。
- ② 役員は、8カウンスルの第1回会合に公式訪問を行い、リージョンの方針を伝えた。
- ③ リージョン会報は、年3回発行を予定し、全会員に第1号、第2号を配布した。第3号は7月に配布を予定している。
- ④ リージョンメールは2ヶ月に1回配信し、6月現在までに5回、また会長メールを12回配信した。
- ⑤ 会長は国際役員会にリージョン会長報告書を3回提出した。
- ⑥ 特別委員会として、今期新たにウェブサイト委員会を設置し、日本リージョンホームページの管理を行った。

第35期日本リージョン年次大会は、2017年6月5日、6日、7日の3日間の日程で、大会テーマ「心はずむ 出会い」“Inspiring Encounters”のもと、奈良ロイヤルホテルにて開催された。

第35期リージョン書記 鶴山 紀子

第35回日本リージョン年次大会での審議結果報告

会則・決議委員長 高橋 和子

第35回日本リージョン年次大会に於いて審議された常規修正案3件および当日提出された動議の審議結果は以下の通りです。

修正案 1 修正案通り可決

修正箇所：常規 1

修正方法：置き換え

現行常規	修正後の表記
1. 日本リージョン会則及び常規は、公式には日本語で記述される。	1. 日本リージョン会則及び常規は、 <u>日本語で記述されたものを公式とする。</u>

修正案 2 修正案通り可決

修正箇所：常規 8.2.1. コンピューター部 8.2.1.a. 8.2.1.b.

修正方法：全文削除

参考

現行常規
8.2.1. コンピューター部
8.2.1.a. 日本リージョンウェブサイトの管理をする。
8.2.1.b. リージョンメールその他のメール発信、受信の管理をする。

➤ この修正案が可決されたため、会則8.2.3. の条文から「コンピューター部」を削除する。

修正案 3 修正案通り可決

修正箇所：常規 8.4.

修正方法：条文から「コンピューター」を削除する

修正後の表記

8.4. 事務局長（OFFICE MANAGER）及び経理、出版、資料の部長はリージョン役員会の承認を得て会長により任命される。任期は1年とする。ただし2年を超えないかぎり継続して任命されることができる。他に事務処理のため事務員をおくことができる

当日提出された動議は審議の結果可決されました。

動議：ITC 日本リージョンは、新組織を構築するための特別委員会を直につくることとする。

但し、特別委員会は各カウンスルから推薦を受けた各カウンスル同数の委員を基本構成とし、第36期会長が任命するものとする

第35期リージョン大会報告

講演

「奈良 平安の色彩」

染色家 吉岡 幸雄 氏



プログラムリーダー 浅井 淑子 (甲南)



伝統行事を通じて奈良に大変ご縁の深い吉岡先生の講演は、6月7日(水)午前10時から始まりました。

壇上右手には、衣桁に掛けられた桜色の襲(かさね)が、左手には植物染めの反物十数点が高さのある衣桁に流すように掛けられ、それぞれの慎ましくも美しい色彩が華やかな舞台を作っています。そして中央には、染色の原料となる天然植物の花や根、樹皮や実などが丸テーブルの上に置かれ、いやが上にも聴衆の興味をそそっていました。

東大寺の大仏建立の折に使われた植物染めは、千年以上経過してもなお鮮やかな色のまま現存しているというお話に驚き、考えられない歳月に認識を新たにしました。

お水取りが営まれる東大寺二月堂の仏前に供える椿の造花は、紅花染和紙で作られ厳寒期でないと鮮やかな色が出ないと知りました。

最も色が豊かだった奈良・平安時代、源氏物語の中に書かれた色のお話では、光源氏が女君達へ贈るそれぞれの器量に合わせた衣裳選びのお話が特に興味を引き、皆様身を乗り出して聴かれているようでした。

文章から想像しか出来なかった色が再現されるまでには、どれほどのご苦労があった事でしょう。途絶えた植物を育てる事から始まる色もあるそうです。

先生は薬師寺や東大寺の伎楽装束の仮面から衣裳他全ても復元されました。伎楽とは滑稽味をおびた無言劇の事で、復元されたお面や衣裳を着けた伎楽団のパレードがスクリーンに映し出された時、当時の色彩が意外にも鮮やかで豊富なこと、色の組み合わせの華やかさに感嘆!

講演後の質疑応答では多彩な質問に軽妙に答えられ、こうした交流の時間をもっと欲しいくらいでした。

「伝統の技が消えかかったら誰かが出てきて継いでくれる…」とのお話は、日本古来の染織技法を探求されている先生と重ね合わせて、これからも長く伝承して欲しいと願わずにはいられませんでした。

教育セッション報告

A いつも心に大和言葉を

著述家 高橋こうじ氏

プログラムリーダー 五十嵐起久代（岡山）



ITC のモットー「私達は言葉を愛し、優雅且つ流暢にそれを用いる」にぴったりの教育セッションでした。

講師が大和言葉に興味を持たれたのは、平安時代に使われていた「かわひらこ」（川辺をひらひら飛んでいる「蝶」のこと）が使われなくなったと知った時で、日本古来のこんな美しく可愛らしい言葉が消えてしまい、心からもったいないと思われたそうです。

「大和言葉ではこれを何というでしょう？」と14の言葉が各テーブルに配られました。無精＝ものぐさ、満月＝もちつき、消化＝こなれ、等。次に大和言葉、漢語、混種語、外来語の見分け方の説明がありこれもクイズ仕立てに。会員は次々と正解し、講師からさすがITCの皆さんは素晴らしいとお褒めの言葉を頂きました。大和言葉の響きを味わうには小学唱歌が良いと「故郷」を全員でゆっくりと味わいながら朗読をしました。大和言葉の美しさを存分に楽しみ、またコミュニケーションに生かし、若い人に伝えていくのは私達大人の務めと結ばれ90分はあっという間でした。

日本人の豊かな感性で育んできた、知的で優雅で先祖の息づかいが感じられる大和言葉。その柔らかい響きは、バラードのようとおっしゃったことが心に残り、内容の濃いセッションでした。

B チャレンジ！ ～人をひきつける話し方・声の出し方～

講師 村本かをり（東山）

プログラムリーダー 太田雅子（浜松）



講師の村本かをりさんはイベントの司会やプラネタリウムでのナレーション、「話し方」の講師等、長年にわたり幅広くご活躍された方です。まさに「話す」プロ。赤のジャケットで颯爽とお話になります。

講座は用意された各種の資料を順に読んでいただいて、それに村本講師がアドバイスするワークショップ形式で進められました。

資料は、新聞の解説文、「沙羅」を題材にしたエッセイ、佐藤春夫の詩、プラネタリウムのナレーション、NHK特集「四万十川」のナレーション、大石内蔵助と妻りくとの会話のある小説、絵本と多彩です。従って読み方も変わってきます。ぶっつけ本番だったので少し戸惑いもみられました。

途中、「寿限無」と6種の早口言葉で舌を滑らかにしました。意味があるような無いような早口言葉には、皆さん楽しそうでした。

村本講師は「声の表情や言葉の使い方を変えるなど話し方を見直すことでこれまで以上に人をひきつけあなた自身の印象を変えることができる」とおっしゃいます。コミュニケーションの基本である「話す」ことを今一度見つめ直す良い機会になりました。



C 音楽の花かご

ワークショップリーダー 小松利香子（しらさぎ）

プログラムリーダー 領家丘子（福岡）



ステンドグラスで彩られたチャペルで、花柄の服装の小松利香子 WL が笑顔で立ち、5人の ITC 会員の演奏とスピーチのワークショップが始まりました。

三枝道子さん（友情演奏、佐野千賀子）の24弦の手製のプサルタリー、初めて目にする弦楽器に聴衆は釘付けに。大谷差智子さんのヴァイオリンと、松本敬さん（友情演奏、大仲聰子）のオカリナに其々に安らぎを感じ、斉田久美さんのハーモニカに溜め息。沢田郁さんのハンマーダルシマー（古典民族打弦楽器）を、ご好意で殆どの参加者が実際に触れ不思議な音色を体験。そして其々の演奏者のエピソードに質問が次々と出ました。最後に、5つの温かい音色に包まれながら全員で「ふるさと」を熱唱参加者の“声”という楽器が加わって、素晴らしい「音楽の花かご」が完成しました。

「緊張から解放された。心が満たされた。安らいだ。」と会場を後にされる声に、音楽を通して心が一つになれた事を確信し、会員の隠れた才能を改めて実感しました。



D 『エゴグラム』を使って 楽しくコミュニケーション

講師 河井美由紀（大阪）

プログラムリーダー 中井恵侑子（ポート神戸）



62名の参加のもと凛とした和服姿の河井美由紀氏（コミュニケーショントレーナー）が演台に登場されご自身の会社「Sontaku 村度」のいわれからお話が始まり「村度」は茶道の亭主が相手の心を推しはかりおもてなしする意味を教わり今から始まるセッションへの興味が益々湧いてきました。

性格は変えられる？変えられない？はワークショップ形式で始まり、まず自分自身とコミュニケーションを取ることが、コミュニケーションに大切なことが分かりました。エゴグラムでは5つの心の要素とその特性で自己分析をしグラフにより判断し243タイプあることを説明され、各自が自己分析をし数名が結果発表後、先生からより深く分析を受けました。会場内のカーテンを開くと鏡になっており、各自が笑顔のチェックをした事は自分自身を知るサプライズでもありました。5項目の活用法では性格は変えられること、新たな自分を発見して才能を生かす事も分かりました。活発な質問にも答えて頂き大いに盛り上がりました。自己の性格の弱いところを意識し、また優れたところを生かし自己形成の確認ができたことは今後より良いコミュニケーションがとれるヒントになりました。皆様と共にこの空間が一つになった有意義な教育セッションでした。

E ビブリオバトルトーナメント

ワークショップリーダー 稲次美子（堺東）

プログラムリーダー 代田有祐美（南大阪）



セッションEは、出場者、参加者約80名を迎え、会場は活気に溢れ緊張感で一杯でした。教育に続いてルール説明がありました。ビブリオバトルトーナメントは、2人1組のチームで6組、12名で行ない、制限時間2人で6分という難しいプレゼンテーション能力を必要とします。タイムはスクリーンに表示され、フロアによく解りました。対戦相手、発表順は、「うちわ」を使ってのくじ引きとなり、発表する書物名もバトルが始まるまで知らされません。発表者はチームカラーのスカーフを身に付け、いよいよ1回戦の始まり。参加者が一番興味を持ち読みたくなったかを競うビブリオバトル。1回戦は小説、ノンフィクション、2回戦は、絵本、マニュアル本、雑誌などのジャンルから。発表後の質問タイムで、参加者と発表者とのコミュニケーションが素晴らしかった。各チームは、発表スタイルや掲示物をよく工夫され、書物内容を奥深くプレゼンされる能力に驚かされました。惜しくも1回戦で敗退したチームの、2回戦のプレゼンも聞きたかったです。参加者が勝者の色画用紙を挙げて勝敗を決め、優勝されたのは、1回戦「王妃の離婚」2回戦「オイコノミア・ぼくらの希望の経済学」を発表されたカウンスル



No.7 谷口久美子会員、下手泰子会員チームでした。有意義な聞きごたえのある「ビブリオバトルトーナメント」。面白い企画をテンポよく進行できたと思います。

F 説得スピーチバトルとよく聴くトレーニング ディベートのための

ワークショップリーダー 中村洋子（東京）

プログラムリーダー 市橋和子（東京）



講師はITC歴5年。家庭科教育で今もご活躍です。今回のワークは①よく聴くと②説得するスピーチのトレーニングです。①では読み上げられた論題について、何をどのように聴きとったかをグループで話し合い、反駁の論点を発表しました。②では6人のスピーカーによるトーナメント戦です。自主的な参加者による説得スピーチは1回戦 A：旅は一人で行く方がよい。B：旅は誰かと一緒に行く方がいい。で競いフロアの挙手により勝敗を決定。その判定理由も聴いていきました。2～4回戦を進んだ決定戦の論題はA：カジノは日本で開くべき。B：カジノは日本には必要でない。でしたが、お互い相譲らずフロアも勝敗を決め兼ねる戦いでした。

トーナメント参加者の高度な説得スピーチ合戦、又フロアからの質の高い評価は参加者全体の自発的なワークとなりました。身近な論題でもあり、しっかりと耳を傾けて聴く、笑いあり、頷きありの全員参加型の活発な90分でした。説得するスピーチは、相手の理性や感情に働きかける部分を明確にする。相手の主張の気持ちを尊重しつつ自身の意図する方向に相手の意見、態度、行動を変化させることを目的とする。という認識を新たにしました。



G ITC の魅力を伝えよう –パワーポイントを使って–

リージョン PREM 委員会 田中和美 (大阪)

プログラムリーダー 松山喜代子 (西宮・クリスタル神戸)



今回の教育セッションは、3部構成でした。

1. パワーポイントの使い方
2. プレゼンテーション「What's ITC?」
3. ディスカッション「今後の PREM 活動」「これからの ITC」

2. プレゼンテーションの目的は、会員歴の浅い方・これから入ろうとする方の為に、また会員が原点に戻って ITC を考える為に、これからもクラブやカウンスルで行っていただきたいプレゼンテーションであると説明。期首に日本リージョン PREM 委員会が配信したプレゼンテーション資料に追加した改訂版を使用したものでした。

現代社会においてパワーポイントはプレゼンテーションツールとしてなくてはならないものです。「パワーポイントの使い方」の資料を配布し、分かりやすい説明、またプレゼンテーション以外の楽しい使い方の紹介もあり身近に感じました。プレゼンテーション「What's ITC?」は明瞭且つ簡潔に行われ、各地で開催された PREM 活動紹介もあり興味深いものでした。そしてディスカッションにおいては、会場におられた入会予定の方、会員歴の浅い方から大ベテランの会員迄、「これからの ITC」について、実に活発で前向きな意見交換が行われました。ITCらしい良い学びの場となりました。

H How Well Do you Know Your Audience?

聴衆のことをどの位 良く知っていますか

Barbara Henderson-Wragge Waitakere Club New Zealand Region

プログラムリーダー 池田瑛子 (サンデー)



今回の教育セッション H、「How Well Do you Know Your Audience? 聴衆のことをどの位 良く知っていますか。」は、リージョン大会教育セッションでは初めての試みとして通訳なし、英語のみで行われた。プレゼンターの Barbara Henderson-Wragge (ニュージーランドリージョン Waitakere クラブ) によるワークショップは日本人メンバーの他、オーストラリアリージョンメンバー2名も参加して、なごやかな雰囲気の中、活発に行われた。良いスピーチをするにはスピーカー主導のスピーチでなくいかに聴衆のことを中心においてリサーチし準備することが大切であることを学んだ。

聴衆のためにどんなことができるかを個々のファーストネームのローマ字から始まる言葉を考え出して発表する等、6つのテーブルに分かれた参加者を巻き込む双方向のセミナーで楽しみながら学んだ。

特に重要な項目は“RESPECT”で表され、

- R research
- E energy
- S sincerity
- P perform
- C care
- T thoughtful



その項目をすべて網羅した Barbara のプレゼンテーションに参加者全員拍手喝采であった。

スピーチコンテスト

第35期日本リージョンスピーチコンテスト委員長 前川 雅子

リージョン大会は初めて古都奈良で開催され、レベルの高いスピーチコンテストが繰り広げられました。コンテストはクラブ、カウンスルで優勝された俊秀で、その後も推敲を重ね技術に磨きをかけられたスピーチだけに、この集大成ともいべきリージョン大会において、会場を埋め尽くした聴衆を大いに魅了しました。深い感銘の中で、私は ITC 会員であることを改めて誇らしく思いました。審査員、評価者その他のお役を務めてくださいました方々のご協力に厚くお礼を申し上げます。またこの1年の準備を通して生まれた委員会での友情にも感謝します。今年で最後になるかもしれないシアトルでの世界大会に、4名の日本代表を送り出します。皆様のご健闘を心より応援しています。



日本語の部

プログラムリーダー 津田 由貴 (西宮)



	氏名(クラブ)	カテゴリー	論題	題目
1位	吉田瑠美子(ひろしま)	鼓舞する	転機	無駄ではない
2位	永井由紀子(紀州)	楽しませる	チャレンジ	幸せってなんだっけ
3位	杉本紀美子(西宮)	楽しませる	光	進化

優勝者スピーチ(要約)

論題：転機 題目：無駄ではない

「ここは、何処、何しているの、どうしてここにいるの？」

「お母さん、気が付いた、交通事故にあって救急車の中よ、病院に行くからね」朦朧としている時、息子の声がしました。

今から1年4か月前、横断歩道を自転車で渡っている時、乗用車に跳ねられ、今まで経験したことのない転機を迎えて2か月半の入院をしました。

頭にはコブと青あざでお化粧顔、腰は圧迫骨折、右足首は2本骨折と身動きできない体。

「今、起きていることは意味があること、無駄ではない、頑張れ」比べれば重体の方もあり、「私は大丈夫」と心で唱えました。

1か月が過ぎた頃、警察の現場検証と事情聴取があり、32歳の乗用車の運転手の方が私の認知症検査を要請していました。「本当に青で渡りましたか、勘違いでは？」文房具や数字のカードで検査しました。あの交差点は市内でも3本の指に入る事故の多い所で、その条件にぴったりです。「高齢者・交差点・自転車・夕方」まるで老人の練習をしているようでした。

精神不安定状態のまま、入院生活2か月の頃、聖路加病院の日野原重明先生(百五歳)の言葉に励まされました。「人間はね、死んだら必ず閻魔大王の前に行かなければいけないのです」前に行くと「貴方が生きている間、ヨソ様から頂いたものをこの天秤に、与えたものを片方に置きなさい」頂いたものが重ければ「ハイ、お前は地獄行き。逆ならば極楽行き」「私はまだ足りないのです。これからは他人様に少しでもお役に立ちたいのです」と。

古い格言に「人から受けた恩は絶対に忘れてはいけない。他人様に与えた恩は忘れなさい」というのがあります。今のままでは、地獄に一直線です。更に転機を感じました。極楽に行くには、まず、「生きていて良かった」「死ななくて良かった」「与える喜びを味わいたい」今、起きていることは無駄ではないと心の声に励まされています。この場所でスピーチすることができ、無駄ではなかったのです。これからは、頑張り過ぎず、我慢し過ぎず、自分に丁度良いほどあいを見つけて成長できたらと思います。





英語の部

プログラムリーダー 川島 泰子 (クリスタル神戸)



	氏名(クラブ)	カテゴリー	論題	題目
1位	Akiko Maruta (Kashiwa)	Inspire	Window	Making Eye Contact
2位	Naoko Okino (Aki)	Inspire	Experience	Challenge
3位	Atsuko Takayama (Hokusetsu)	Inspire	Spotlight	My Life

優勝者スピーチ (要約) Subject: Window Title: Making Eye Contact

When my daughters were small, I enjoyed reading picture books for them.

One of our favorites were Miffy. What I thought a little curious was that Miffy was always looking frontward. Recently I learned that Dick Bruna wanted to have Miffy always look at the readers, the children.

When I heard Dick Bruna's comment, it reminded me of an experience when I went to see a famous Great Buddha. When I looked up, the Buddha was smiling and was looking at ME in my eyes with slightly opened eyes filled with deep compassion. The Buddha seemed to have noticed my heart and mind, which filled my heart with warm feeling.

We human beings express our thoughts and feelings by using words. At the same time, our eyes help us convey our requests, rejections, and anger. Our eyes can give relief to others, too. Our eyes are the windows of our hearts and minds. Through face to face communication, our eyes express what cannot be expressed by using electronic devices.

Things are changing and time goes by so quickly, but in our busy daily lives, why not stop and think for a while, what Dick Bruna was willing to tell us through Miffy's eyes? People around us might be waiting to talk with us face to face: looking at each other's eyes which are the windows of our souls?



娘たちが幼かった頃、よく絵本を読んで共に時間を過ごしました。中でも「うさ子ちゃん」はお気に入りの一つでしたが、一つ不思議に思うことがありました。うさ子ちゃんはなぜいつも正面を向いているのだろう、と。読者である子供たちと常に目を合わせるように、と作者が思っているのを知ったのは最近のことです。

私たち人間は言葉を使って思いや感情を伝えてきましたが、目で要求・拒否・怒りなどの心の動きも表現してきました。また、私たちの目は人に安心感を与えることもできます。目は心の窓と言えるでしょう。直接会って目を合わせてコミュニケーションをとることによって、電子機器では表現しきれない想いを伝えることができるのです。

物事は変化し、時は忙しく過ぎて行きます。多忙な日々の中、少し立ち止まって考えてみませんか？うさ子ちゃんの視線の中にあるものを。心の窓とも言える目と目を合わせて話し合うのを待っている人がいることを。

ライティングコンテスト

英語の部 ノンフィクション

藤木 桂子 (イースト神戸クラブ)



Time, my most revered partner

Time is my eternal friend. I understand Time is my best partner in life. The clock is ticking away the minutes while I am writing. We can put a clock backward or forward, but cannot stop the march of time. If you can put time to good use and use it effectively, we can use it twice as much or more. Time given to every person is not indefinite, but it all depends on whether you use it usefully or not. The good old days are over and now two Hayabusas have been launched to get information and knowledge of how our Earth was born. I suppose it took an extraordinary amount of time for the planet to develop into such a living, breathing Earth. Every heart-beat of the Earth has been producing Time ever since the planet was born. To my regret, until recently, I spent every minute without having a keen awareness of time. I should have noticed earlier.

I have lived in a happy-go-lucky fashion without knowing there might have been those grey time-thieves as the ones described in Momo by Michael Ende. We cannot see time itself. Time is in the mind. Time is something felt. To live is to put your spirit into time. Otherwise, time-thieves in grey suits will slyly steal your time. By looking at clocks we can tell time, but time is indefinite and difficult to find out. I should have realized it earlier, but better late than never, I suppose. My dearest husband's condition has not been good these four years. He was constantly in and out of the hospital and had an operation three times within four years. I was always feeling uneasy about his poor condition. All I had to do was to believe in his vital energy to recover himself. In addition to a great advance in medical technique and medicine, time takes an active role in the process of recovery. Yes, time heals slowly but surely. Time is a great healer. I realized 'Haste makes waste'.

The only thing I had to do was to wait for the good time to come. Every day I sat beside his bed hoping for his early recovery. Then I looked back on the days with him stretching over more than half a century. Suddenly I began to write down every single moment I could remember in my life. We cannot stop time nor put it back again, but can reminisce about our past. So every day beside his bed, I reached back in my mind and took notes of every shared memory together. I was certain that he would recover soon. Time slid by and he recovered little by little. While he was in the hospital, my husband and I advanced in age. It was the work of Time. We celebrated each other's birthday in the hospital. We heard some patients saying in a cheerful voice something about their discharge from the hospital. But I didn't begrudge them. 'Wait and see' was my philosophy. Time went by and I noticed that I had already finished writing a rough draft of an essay. Tears of joy ran down my face when at last my husband left the hospital after struggling so long with illness. I found him much more moderate in speech and behavior than before. In his youth, he had been deeply absorbed in his work and became out of shape. He must have learned a lot while he was in the hospital for such a long time. Time has passed without my seeing it, but Time has produced good results. I don't know how much longer I can live, but I would like to adapt my way of life to the rhythm of the Earth. I mean to let nature take its course. The clock is ticking away the minutes. Ah, how time flies!

My dearest friend Time, thank you for accompanying me throughout my writing. You are always my most cherished partner. You are my lifelong companion.

英語の部 Poetry 部門

深澤佳代子 (神戸クラブ)



WITH YOU . . .

On a sunny day of the winter,
JACK is dozing.
Suddenly his legs began to move to the front and back.
And said bowwow in a small voice.

"Are you dreaming the time
when you were running around in the wide field?"
"Are you dreaming the time
when you were digging a lot of holes barking?"

He is sleeping happily.
I remembered those days when I enjoyed with him.

What a lovely JACK !

JACK is my dog and he is 17 years and 6 months old.
Now he doesn't run, bark and he is hard to hear me.
He is waddling.
But he has still good sight and eat a lot and smell.

One day
I found that he informs me what he wants to do with the low voice.
Toilet time. Sleeping time.

He can still keep the good communication with me.

When he can't go to asleep, I touch his body softly.
He goes to asleep at rest feeling my warmth of my hand.

Baby ! Yes, he is just a baby.
Same as 17 years ago.

He didn't like to be held,
but he likes to be with me now.

How long I can be with him ?
How long I can feel his warmth ?

I whisper to him holding him in my arms.

"I love you. You are not alone. All right."
"I am with you all the time."

日本語の部 **ノンフィクション**

山本幸登美 (岡崎クラブ)



「あの日の私」

6年前の春、私は名古屋の桜の名所として知られる山崎川の桜並木が、今まさに満開を迎えようとしている風景を14階の病室の窓から眼下にぼんやりと眺めていた。

まるで、自分とは別世界の出来事のように感じながら。

それから1年後。私は待ちきれないような気持ちで、京都に向かう新幹線に飛び乗った。若くて、元気だった「あの日の私」に会いに行く旅だった。

桜がこんなにも美しいものだったのかと感動した平安神宮の紅枝垂れ桜。桜吹雪をあびながら友人と歩いた哲学の道。新幹線が京都に近づくにつれて懐かしい風景が甦り、自分は病後で、まだ十分に体調が戻っていないという現実私の頭の中からすっかり消えていった。

そして、その日、私はまるで何か不思議な力に導かれるかのような出会いを経験したのだった。

平安神宮から哲学の道へはバスで移動する予定であったが、春の陽気に誘われて少し歩いてみたい気分になった。1年間、家に引きこもるような生活を送っていたとは思えない、まるで「あの日の私」に返ったかのような軽快な足取りで。

東大路通りを北に向かい、ちょうど京大病院の横を通りかかった時、私の目に古いお地蔵様が飛び込んできた。引き寄せられるように歩みよってみると、「全快地蔵」と書かれていた。

近代的な病院の敷地内にありながら、そこだけまるで時間が止まったかのような不思議な空間であった。私はこのお地蔵様はいったいどれだけの人たちの悲しみや苦しみを受け止めてこられたのだろうかと思ひながら、お線香を手向け、手を合わせた。

学生時代を京都で過ごした私は、この道を何度となく通っていたはずであるが、「あの日の私」はお地蔵様に気づく事なく自転車ですいすいと通り過ぎていた。この旅でお地蔵様に気づいたのは、ほんの偶然の出来事なのかもしれないが、その時の私には間違いなく意味のある出会いであった。

お地蔵様の前でしばらく考え事をしている間に、私の心の中からあの日のように元気な私に一日も早く戻りたいという気持ちは消えていった。そして、こうしてここに居られる事への感謝の気持ちでいっぱいになった。毎年、会いに来ようと心に決めてその場を後にした。

もうこれ以上は歩けないと感じて、哲学の道へはバスで向かう事にした。バスの窓越しに京都の街を眺めながら、私は心の中でそっと「あの日の私」に呼びかけた。

「あなたのように若くはないけど、一生懸命に生きてきたもの、今の私も悪くないでしょ？」と。

日本語の部 **短歌**

中島由美子 (芦屋クラブ)



ヨチヨチと ころがる枯葉 追いかくる 幼を包む 丸き冬の陽

日本語の部 **詩**

萩原 貴子 (しらさぎ・クリスタル神戸クラブ)



「愚かなる人間たちよ」

大いなる大地よ 君は 今 怒っているのか
大いなる空よ 君は 今 泣いているのか
大いなる山よ 君は 今 悲しんでいるのか
大いなる海原よ 君は 今 憤っているのか

君たちの 悲しみの涙が 雨粒となって 大地に降り注ぎ
君たちの 怒りが風を呼び 嵐となって 吹き荒れている

わかるんだ 君たちの思いは
だけど どうか許してほしい もう少し待っていてほしい

人間は やっと気づき始めた
この美しい地球 宇宙は
決して 人間だけのものではない ということを
人間はあまりにも奢りすぎた

君たちからみれば 人間は とてもちっぽけだろう
君たちの力からすると ほんのひとひねりだ

だから お願いだ 待っていてほしい
美しいこの自然を取り戻すために もう少し
今 やっと 努力を始めたのだから

大いなる大地よ 君は 今 怒っているのか
大いなる空よ 君は 今 泣いているのか
大いなる山よ 君は 今 悲しんでいるのか
大いなる海原よ 君は 今 憤っているのか

英語部門審査員 (審査員代理) : ネイティブ1名、専門学校英語講師1名、ITC 英語クラブ会員2名
日本語部門審査員 (審査員代理) : 作家1名、ITC 日本語クラブ会員3名

大会 ALBUM



派遣員ブリーフィング



会長行進 進行





審議



ITC 宣誓



会員代表



インスピレーション



クロージングソート



指名委員長



受付



資料販売



キット



VIP 接待



ページ



奈良特産品販売



ホスピタリティー



濡れないように昼食会場へお世話になりました



晩餐会



35期役員 レシービングライン (立礼)



エンターテインメント



奈良市長



奈良県知事代理



表彰

継続会員



PREM 委員会
特別推薦賞



ライティングコンテスト



第36期日本リージョンテーマ・次期役員・次期指名委員会

36期テーマ 「You Raise Me Up —

優しさと励ましのコミュニケーション」

次期役員	会 長	西 村 みつ子 (No.1 名古屋)
	次 期 会 長	加 藤 正 枝 (No.4 岡山あくら)
	第一副会長	高 橋 和 子 (No.2 阪 神)
	第二副会長	布 野 泰 子 (No.7 出 雲)
	書 記	田 中 和 美 (No.5 大 阪)
	会 計	山 内 昌 子 (No.8 東 京)

次期指名委員会	委 員 長	横 山 末 子 (No.2 六甲・クリスタル神戸)
	委 員	竹 内 邦 子 (No.3 姫 路)
	委 員	吉 岡 裕 子 (No.4 ひろしま)
	委 員	平 井 典 子 (No.5 豊 中)
	委 員	烏 谷 まゆみ (No.8 韭 崎)

第36期日本リージョン役員就任式



第36期日本リージョン年次大会案内 閉会式

大会テーマ 「心をひとつに」

開催日：2018年6月3日(日)、4日(月)、5日(火)

場 所：名古屋東急ホテル

次期大会準備委員長

伊藤 容子 (No.1 東山)



閉会式



記念例会報告

東京クラブ40周年記念の集い

会長 井田 育代

「40周年記念の集い」は、新緑が眩しい2017年5月16日、センチュリーコート丸の内に全国から大勢のゲストをお迎えし開催されました。プログラムは3部構成で、第1部「チャーターメンバーへのインタビュー」では、創立時の懐かしいお話に、40年前が甦り、今日まで大切に引き継がれてきた歴史の重みに会場は、感無量でした。第2部は「課題図書にみる40年」。夏休みに全員が課題の1冊を読む、40年続いた東京クラブ自慢のプログラムを、映像とナレーションで振り返りました。第3部は「これが歌舞伎だ！」と題する元歌舞伎座支配人の講演で、映像を交えた歌舞伎の見どころなどのお話に、一同深く引き込まれました。「作品で観るのではなく役者で観る」というのは目から鱗でした。ゲストの方からの「ITCの会員でよかった」「素晴らしい時間をありがとう」のお言葉は、当クラブ会員にとって何よりのプレゼントとなりました。



九州クラブ40周年記念例会

会長 大野加津子



2017年5月17日（水）九州クラブ40周年記念例会を開催いたしました。1977年7月クラブ誕生。日本リージョンの中にあって9番目として九州の地に播かれた1粒の種は絶えることなく40年という歳月と歴史を刻みながら今日40周年を迎える事が出来ました。このことは多くに先人のたゆまない熱意と努力によって培われたものと思っています。

関門海峡を渡り大勢のお客様をお迎えすることが出来、心より感謝の気持ちで一杯です。ワークショップ、エンターテイメントの津軽三味線、参加者全員がこの時間を共有しコミュニケーションを図ることが出来、貴重なひと時を過ごせたように思えます。現在会員数12名、例会準備には一人一人の力を出し合い補い合いながら1つの束となって感謝の気持ちを花束として例会を作り上げました。

宝塚クラブ30周年記念例会

会長 西本 敬子



去る4月10日・11日に宝塚劇場と宝塚ホテルにて「宝塚クラブ30周年記念例会」を行いました。4月10日は宝塚歌劇場でブロードウェイミュージカル「スカーレット・ピンパネル」の宝塚歌劇観劇。4月11日はゲストに元プロレス世界チャンピオン今ジャンソン歌手の「マッハ文朱」さまをお迎えして祝典のあとITCジャンソンのお仲間と宝塚クラブ会員のスピーチ・朗読・ストーリーテリングのコラボで楽しいひとときを過ごしました。

最後はマッハ文朱さまの「どうにもとまらない」で会場総立ちで躍り出し全員で歌って興奮冷めやらぬなか閉会いたしました。ご来場いただきましたリージョン会長中野知子様はじめ多くのゲストのみなさま本当にご協力ありがとうございました。



～ 浜松クラブ30期を祝う会 ～

会長 朝元千恵子

浜松クラブは、2017年5月14日(日) オークラアクトシティホテル浜松にて、記念例会を開催致しました。Chris Endo ITC 会長を始め、各方面よりお祝いメッセージを頂き、式典では日本リージョン西村次期会長、葛谷議会法規役員より祝辞を頂き、クラブ会員一同心より感謝申し上げ、30周年の祝いを実感しました。式典の終わりに、30年の歩みの中から、クラブ設立当時の話題に始まり一人一人が活動内容や感想を述べ、クラブの紹介としました。

午後のプログラムは、浜松市文化振興課による講演「創造都市浜松を目指して」のテーマのもと、楽器の都、そして音楽の都へと活動する浜松を知って頂けたと思います。私達は、もっと地域を知って、地域に根ざし、学んで来たことを活かして行きたいと思いました。プログラムの最後は、エンターテイメント、大手楽器会社でご活躍する方々による Jazz Quartet の演奏を楽しみ、楽器の都、そして音楽の都に触れて頂き、ご参加下さった皆様に感謝しつつ閉会となりました。



～ 岡崎クラブ20期を祝う会 ～

会長 加藤佳久子

岡崎城の周りを700本の桜が咲く中、旧城内のホテル会場をクラブ員の手作りのカードやテーブル花、笑顔の似顔絵、舞台の上には岡崎クラブ20期を祝う会のボード、ITC フラッグを掲げました。

テーマは“岡崎づくし”とし、岡崎クラブらしい記念例会を基にオープニングは全員で市歌の正調岡崎五万石を唄い、クラブの歴史と会員の紹介を行いました。お客様は日本リージョン会長中野知子様をはじめ、156名をお迎えできましたこと、大変嬉しく心に残る日となりました。祝宴は地元の八丁味噌を使用したお食事、会場は篠笛の演奏で盛り上がりました。講演会は、徳川宗家18代当主徳川恒孝様に「家康公を育てた岡崎」と題して宗家ならではの興味深いご講演を頂きました。



この記念例会が、会員ひとりひとりの信頼と尊敬を確認したよい機会となり、未来へと続く絆を深めることができました。これかもどうぞよろしく願い申し上げます。

～ 紀州クラブ15周年記念例会 ～

第一副会長 坂田由美子



—— さらに仲良く一致団結！

2017年4月20日、アバローム紀の国において紀州クラブ15周年記念例会を開催いたしました。他カウンスル、他クラブ会員の皆様、一般ゲストの皆様がお祝いにかけて下さり、総勢63名のにぎやかで華やかな記念例会となりました。紀州クラブ設立時にご尽力くださった諸先輩方から当時のエピソードやお祝いのスピーチ、紀州クラブ会員による「551スピーチ」と題してITCのある時、ない時スピーチやクラブ会員同士の他己紹介による全員の紹介、そしてエンターテイメントはマリンバ演奏とクラブの一人一人の持ち味をご披露することができ、ゲストの皆様からも温かい応援のお声を頂きました。小数精鋭 ITC を学び合い、絆深い交流を心に念じてこれからも進んでまいりたいと思います。

第35期 PREM 会合・例会報告記



カウンスル No.5 PREM 会合に参加して

リージョン PREM 委員 横山 末子 (六甲・クリスタル神戸)

「行こうよ阿波 PREM! きっと何かが始まるよ!」何とこの呼びかけに一般ゲストを含め総勢131名が出席。粋な和服姿の会員がお三味線を弾いて歓迎下さる。先ずは驚き! 平田真弓会長のご挨拶に始まり威勢の良い大沢仁美 PREM 委員長のリードにより、会場は湧きあがる。

坂口正子会員による「ITCって何?」興味深い教育に始まり、カウンスル No.5 クラブ代表2名の強者(つわもの)達が「プロ&コン」で競い合う。破天荒な言い分を間髪を入れず熱弁を交わし相手をぶった切っていく。ITC の訓練の成果は眼を見張り会場を沸かす。

エンターテインメントはピアノコンサート、「阿波踊り・娯茶平」が繰り出し、娯茶連のお囃子で会場は阿波踊りの輪が広がる。

“賜天覧”のうちわが2名の ITC 会員に贈呈され栄誉に大喜び! ITC のパワーの凄さをご披露した PREM 会合でした。



カウンスル No.7 「ITC のつどい」を終えて

カウンスル No.7 PREM 委員長 福代 俊子



桃の3月、カウンスル No.7 第4回「ITC のつどい」を出雲大社北島国造館において参加者90名により開催致しました。午前は国造館周辺スポットご案内、正式参拝、そして昼食は古代食復元献立「出雲の幸づくし」で古代の出雲の味覚を楽しみました。午後からのプログラムは、リージョンのプレゼンテーション資料を活用した。映像による ITC と各クラブ紹介、講演、「舞と語り」です。

講師の北島国造様は、私たちがいつの世も心の拠りどころとしてきた「出雲と伊勢」についての貴重なお話と、最後に神道の教えの「浄明正直」という人間の理想とする言葉で道を示唆頂きました。遠路参加頂いた中野会長はじめ3名のリージョン役員の皆様から、「No.7 の団結力と充実、ゆったりと通い合う心の感じられる中で、PREM の目的を達成された会合でありました。」との感想を頂き今後の励みになりました。また多くのマスコミが取り上げて下さいました。「つどい」での学習が会員の自己啓発と会員増強の一助となることを期しています。

カウンスル No.2 PREM 会合に参加して

リージョン PREM 委員 横山 末子 (六甲・クリスタル神戸)

平成29年4月21日(金)神戸市医師会館に於いて一般ゲストを含め55名の出席者の中村記子 PREM 委員長のリードにより開催された。教育「What's ITC」の資料を用いて PREM 委員会が展開した。インタビューはリージョン PREM 委員により「ITC の目的」が説明され、「ITC に入った動機は?」5名の ITC 会員がそれぞれ語る。「ITC をご理解いただけましたでしょうか?」と2名の一般ゲストに質問。講演 テーマ「今 私たちの地球は!」学術的な高度な講演を拝聴した。



PREM スピーチコンテスト会合・例会報告



学生のスピーチコンテスト

今年も小・中学生、そして高校生のスピーチコンテストが開催されました！
どちらも今年で6回目。学校関係者より、学生の皆様に成果が出ているという嬉しい声が聞かれています！ ITCのノウハウを活かして全国各地で学生のスピーチコンテストを開催しましょう！ ITCらしい社会貢献ですね。

小・中学生 スピーチコンテスト

第6回東広島市内小・中学生スピーチコンテスト

カウンスル No.4 ひがし広島クラブ リージョン PREM 委員 平重 映子

平成29年2月5日小・中学生のさわやかな声が響き渡っています。
第6回東広島市内小・中学生スピーチコンテストが開催されました。
後援：東広島教育委員会・東広島教育文化振興事業団・ITC日本リージョン
主催：ITC ひがし広島クラブ



その名のとおり教育委員会始め ITC の皆さまのお力添えをいただきながら小さなクラブが頑張って6回を重ねてきました。今回は84名の応募があり、コンテストには15名出場していただきました。そもそものスタートは地域に貢献したいとの思いと共に ITC をより多くの人に知ってほしい！ことから始めました。教育委員会から各学校に到達していただくも一校一校手分けして挨拶、お願い行脚から始まりました。これ以上手を煩わすことはしたくないといわれる先生もあれば子供たちのために経験の場をと賛同して下さる先生もあり何度もくじけそうになりながらもコンテスト当日子供たちのすばらしいスピーチに励まされてきました。会を重ねていくうちに子供たちのスピーチのレベルも上がり逆に私達のほうが学ばせていただいています。出場を通して成長した子供たちの姿に先生方から感謝の言葉をいただくとき何より嬉しく次回に向けての力が湧いてきます。又、カウンスルやバイリンガル西条のお力添えがなかったら1回としてできなかったと心から感謝しています。ITCの中でクラブそのものが成長させていただいています。感謝です！



高校生 スピーチコンテスト

カウンスル No.3 第6回高校生スピーチコンテスト

カウンスル No.3 PREM 委員長 藤川 和江

ITC 日本リージョン・兵庫県私立中学高等学校連合会の後援を頂きカウンスル No.3 第6回高校生スピーチコンテストを3月20日（月・祝）成功裡に終えることが出来ました。

今回英語7名、日本語6名計13名の高校生に参加をいただき、若さあふれる白熱したスピーチに会場の雰囲気はピーンと張り詰めたものがあり聴衆の皆様は高校生の素晴らしいパワーに引き込まれていました。

心に響く感動のスピーチに時間の過ぎるのを忘れるくらいの高校生の皆さんの熱意に審査員の方々も甲乙つけがたいスピーチにお困りになった事と存じます。

優勝されたお2人の方には、カウンスル No.3 第2回会合においてデモンストレーションをしていただき、多くの会員の皆様に新鮮なスピーチを聴いていただきました。

役員の皆様、担当会員、PREM 委員の力の結集とっております。翌日には神戸新聞にも掲載され、各方面より賞賛のお声を頂戴しました。今回の成果を目の当たりにして継続は力なりを実感いたしました。



第35期 日本リージョン情報



ITC 国際会費について



日本リージョン役員会では

「2017年7月開催のシアトル大会における解散決議案の審議結果が出るまでは

ITC 国際会費は集めない。」と決定いたしました。

従って 事務局からの ITC 国際関係書類 (Annual Statement, 国際会費) は審議結果がはっきりいたしますまでは送信いたしませんのでご了承ください。

第35期日本リージョン会長 中野 知子
事務局長 深澤佳代子

カウンスル推薦の組織検討委員が決定いたしました

No.1	松本 紀子 (東山クラブ)	大原 慶子 (岡崎クラブ)
No.2	杉谷 和代 (イースト神戸クラブ)	深澤佳代子 (神戸クラブ)
No.3	海老原あかね (しらさぎクラブ)	中島由美子 (芦屋クラブ)
No.4	沖田 道子 (ひろしまクラブ)	早津 聡子 (岡山あくらクラブ)
No.5	坂口 正子 (大阪クラブ)	平田 真弓 (阿波クラブ)
No.6	高木 清子 (京都クラブ)	中野 知子 (奈良クラブ)
No.7	岡崎 祥子 (米子クラブ)	秦野 順子 (米子クラブ)
No.8	佐野千賀子 (東京クラブ)	小菅あけみ (8月より盛岡クラブ)

第35期日本リージョン次期会長 西村みつ子

大会準備委員長より

大会後、領収書、大会様子、写真、宿泊人数、バス運行表など数々の書類作成をして県に提出、6月末に奈良県から42万円の助成金をいただきました。

理由は奈良に多数の宿泊人数をお迎えできたこと、奈良の観光をご案内できたこと、奈良の伝承文化(雅楽)などを取り上げた事などです。その費用は全てシャトル大型バスを運行するために活用いたしました。

日本リージョン年次大会準備委員長 中尾 光子

物故者氏名 (2016/8/1~2017/7/31)

心からご冥福をお祈り申し上げます

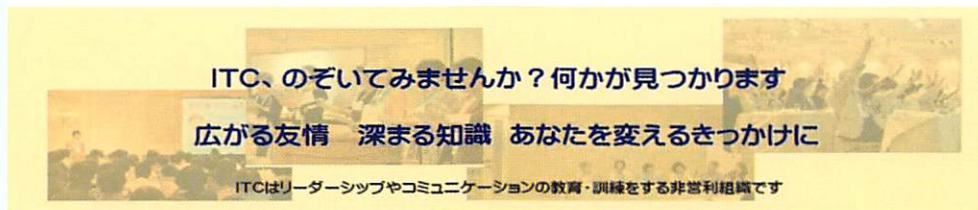
No.1	名城クラブ	島本佐江子様
No.5	城北クラブ	福島 輝枝様
No.6	平安クラブ	上柳満佐子様
No.8	彩玉クラブ	上野 節子様
無所属	バイリンガル西条クラブ	今井 聖子様



編集後記



ITC日本リージョン
International Training in Communication



日本リージョンウェブサイト（ホームページ）会員ログインの方法

<http://www.itcjr.jp/>

① <http://www.itcjr.jp/> クリック！

② 会員専用ページ ログイン

ユーザー ID 会員番号 （わからない時は、事務局、又はクラブ会計にお聞きください）

パスワード 会員の姓のローマ字小文字 （例 nihon）

この時パスワード記憶の欄をチェックしておく次回からすぐログインできます。

編集後記 今期を終えて

委員 筆本美智子

はっきりとした編集方針のもと3回の会誌の発行はスムーズに運びました。スタッフとしていつも楽しく内容豊富な会誌が発行されると自負しております。会長はいつも編集会議に顔を出してくださり、ITCの組織と会員の素晴らしさを改めて感じた1年でした。

委員 長谷川充子

何を？何処に？から始まる編集会議。依頼した原稿が集まり、紙面が出来ていく過程と共に深まっていく委員会の絆。どの原稿もその向こうに役職や立場に対する執筆者の熱意と責任感が感じられ、1字1句正確に活字にとパソコンと格闘の日々でした。3冊ともかわいい我が子の如くです！！

委員 森本みどり

委員会活動の中で今期は多くの学びを頂きました。また、これまで何気なく目にしていた会報ですが、編集活動を通して、多くの会員の英知やITC愛が詰まっていたことを実感しました。お世話になりました会員の皆様、編集委員会の皆様、ありがとうございました。感謝！！

編集者 小田 和子

今期、任務の中で鳥の眼、虫の眼を通して、日本リージョンの全体像を捉えることが出来ました。相次ぐ諸問題に思慮深く慎重に取り組む役員会をはじめ各担当箇所での活動に触れ、会員の皆様の明敏さと溢れる熱意を感じた一年でした。シアトルでの解散決議案の結果を待たずしての3号の発行となりましたが、日本リージョンの変革の時にITC活動に真剣に取り組ませていただきました事を感謝しております。1年間多大なご協力をいただきまして有難うございました。

ITC日本リージョン会報 Vol.35/No.3
編集・発行：第35期 ITC日本リージョン
印刷：上野タイプ印刷(株)

ITC Pledge

ITC 宣誓

We, as members of International Training in Communication, hereby pledge to improve our communication and leadership skills, in order to achieve greater understanding throughout the world.

我々インターナショナルトレーニング イン コミュニケーションのメンバーは、世界中の相互理解促進のために、コミュニケーション技術と指導力の向上に努めることをここに誓います。

2016-2017

ITC日本リージョン声明文

Mission Statement of Japan Region

ITC日本リージョンの使命は、ITCの目的とするコミュニケーション技術と組織運営の技術を習得する機会を会員に提供してリーダーシップをそなえた成熟した社会人を養成し社会に貢献することにある。

The mission of ITC Japan Region is to present the members opportunities for quality training in communication and leadership skills which are the purposes of International Training in Communication and benefit the society by providing mature individuals.